



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 雪印メグミルク株式会社 上場取引所 東・札
 コード番号 2270 URL <https://www.meg-snow.com/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 雅俊
 問合せ先責任者(役職名) 広報IR部長 (氏名) 左柄 正典 (TEL) 03-3226-2124
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	440,302	3.0	11,095	△32.5	11,011	△39.2	5,908	△48.6
2022年3月期第3四半期	427,651	—	16,439	△3.0	18,111	△1.8	11,501	△0.3

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 7,127百万円(△38.6%) 2022年3月期第3四半期 11,612百万円(△24.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	87.48	—
2022年3月期第3四半期	170.31	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年3月期の期首から適用しております。このため、当該基準を適用する前の2021年3月期第3四半期の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、2021年3月期から当該会計基準等を適用したと仮定して算出した増減率は0.7%増であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	418,413	212,267	50.0	3,096.22
2022年3月期	401,890	209,528	51.5	3,061.75

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 209,130百万円 2022年3月期 206,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	60.00	60.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	580,000	3.9	11,000	△39.1	12,500	△37.5	8,500	△29.6	125.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	70,751,855株	2022年3月期	70,751,855株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	3,207,807株	2022年3月期	3,216,075株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	67,540,283株	2022年3月期3Q	67,533,806株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

(四半期決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

四半期決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しております。

当社は2023年2月10日(金)にアナリスト、機関投資家向けの電話会議を開催する予定です。
この電話会議における四半期決算説明会資料については、同日当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	12

(補足説明資料)

2023年3月期 第3四半期決算短信 補足説明資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費に緩やかな持ち直しの動きがみられるものの、ウクライナ情勢の長期化、世界的なエネルギー価格等の高騰や円安の影響などもあり、先行きは不透明な状況が続いております。

食品業界においては、世界的な原材料価格やエネルギー価格等の高騰により、食品をはじめ様々な商品の値上げが続いており、消費マインドに影響を与えております。また、外食需要はコロナ禍からの回復が見られるものの、依然としてその途上にあります。

このような環境下、当社グループは「グループ中期経営計画 2022」に基づき、「4つの事業分野（乳製品事業分野、市乳事業分野、ニュートリション事業分野、飼料・種苗事業分野）における収益基盤の確立」に向けた取り組みを進めました。

この中では、機能性を軸としたヨーグルトおよびチーズなどの主力商品の戦略的拡大とプロダクトミックスの更なる改善、ニュートリション事業分野におけるマーケティング投資の継続による規模拡大と収益確保の両立、飼料・種苗事業分野における戦略的拡大と収益基盤の整備、ならびにグループ経営資源の活用拡大やバリューチェーンの生産性向上によるグループ総合力の強化等に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大が継続する中、従業員の感染予防に取り組み、お客様へ安全で安心して頂ける商品の安定供給に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結経営成績につきましては、売上高は440,302百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は11,095百万円(前年同期比32.5%減)、経常利益は11,011百万円(前年同期比39.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,908百万円(前年同期比48.6%減)となりました。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、第1四半期連結会計期間より、株式会社ベルネージュダイレクトは重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間において、全国農業協同組合連合会が優先株式を普通株式へ転換したことにより、協同乳業株式会社に対する当社の持分比率が減少し関連会社に該当しなくなったため、同社を持分法適用の範囲から除外しております。

セグメントごとの当第3四半期連結累計期間の業績は次のとおりです。なお、セグメントごとの売上高につきましては、外部顧客に対する金額を記載しております。

① 乳製品

当セグメントには、乳製品（チーズ、バター、粉乳等）、油脂、ニュートリション事業（機能性食品、粉ミルク等）等の製造・販売が含まれております。

売上高は187,444百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益は8,111百万円(前年同期比21.0%減)となりました。

(売上高の状況)

バターは、家庭用バター主力品の販売拡大に積極的に取り組んだことや外食需要の回復により業務用バターの販売が増加したことなどから前年を上回りました。

油脂は、市場全体の落ち込みや価格改定の影響により前年を下回りました。

チーズは、販売促進の取り組みを強化した結果、主力商品である「さけるチーズ」や「カマンベールチーズ」などのナチュラルチーズの販売が好調に推移しました。「スライスチーズ」や「6Pチーズ」を中心としたプロセスチーズの販売も堅調に推移しました。

その結果、チーズ全体では前年を上回りました。

機能性食品は、定期購入型通販ビジネスが引き続き好調に推移したこと、積極的なマーケティング投資や健康志向の高まりにより引き続き伸長しました。

(営業利益の状況)

原材料コストの増加やオペレーションコストの増加、固定経費の増加などにより減益となりました。

② 飲料・デザート類

当セグメントには、飲料（牛乳類、果汁飲料等）、ヨーグルト、デザートの製造・販売が含まれております。売上高は183,536百万円（前年同期比0.8%減）、営業利益は1,210百万円（前年同期比69.3%減）となりました。

（売上高の状況）

飲料は、飲料タイプとしては日本初の「骨密度を高める」機能性表示食品となる「MBPドリンク」の販売が好調に推移しましたが、食品等生活必需品の値上げ環境下における消費マインドの低下などにより牛乳を中心に前年を下回りました。

ヨーグルトは、「牧場の朝ヨーグルト」や「ナチュレ恵megumi」プレーンヨーグルトなどの販売が堅調に推移しました。一方で前年度のテレビ放映による機能性ヨーグルトの増加が今年度は落ち着いたことなどにより、全体では前年を下回りました。

デザートは、「CREAM SWEETS」シリーズの販売が好調に推移したことなどにより、前年を上回りました。

（営業利益の状況）

原材料コストの増加やオペレーションコストの増加などにより減益となりました。

③ 飼料・種苗

当セグメントには、牛用飼料、牧草・飼料作物種子、野菜種子の製造・販売、造園事業が含まれております。売上高は41,082百万円（前年同期比13.5%増）、営業利益は363百万円（前年同期比67.2%減）となりました。

（売上高の状況）

配合飼料販売価格の上昇などにより当セグメント全体で前年を上回りました。

（営業利益の状況）

原材料コストの増加による粗利益の減少などにより減益となりました。

④ その他

当セグメントには、共同配送センター事業、不動産賃貸事業等が含まれております。

売上高は28,239百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は1,401百万円（前年同期比30.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

（単位：百万円）

区分	2022年 3月期末	2023年 3月期 第3四半期	増減金額	主な増減理由
資 産	401,890	418,413	16,523	受取手形、売掛金及び契約資産+19,378 建物及び構築物(純額)+4,165 商品及び製品△4,875 現金及び預金△4,766
負 債	192,361	206,146	13,784	支払手形及び買掛金+8,339 社債+5,000 短期借入金+2,351 長期借入金△5,478
純資産	209,528	212,267	2,738	利益剰余金+1,455 為替換算調整勘定+662

② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

区分	2022年 3月期 第3四半期	2023年 3月期 第3四半期	増減金額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	21,565	10,161	△11,404	税金等調整前四半期純利益△7,541 売上債権の増減額△5,948 未収入金の増減額△3,449 仕入債務の増減額+4,107
投資活動による キャッシュ・フロー	△15,884	△13,186	2,698	有形及び無形固定資産の取得による支出 +2,413 投資有価証券の売却による収入+1,135
財務活動による キャッシュ・フロー	△19,029	△2,336	16,693	長期借入金の返済による支出+15,001 社債の発行による収入+4,971 短期借入金の純増減額△3,224
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,604	15,211	6,607	—

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年8月10日の四半期決算短信にて公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日公表の「2023年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,991	15,224
受取手形、売掛金及び契約資産	72,297	91,675
商品及び製品	47,408	42,533
仕掛品	890	1,334
原材料及び貯蔵品	13,851	16,225
その他	6,009	6,450
貸倒引当金	△309	△369
流動資産合計	160,139	173,074
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	55,113	59,279
機械装置及び運搬具（純額）	58,973	58,687
土地	49,426	49,504
その他（純額）	15,379	14,596
有形固定資産合計	178,892	182,067
無形固定資産		
のれん	582	571
その他	2,709	2,643
無形固定資産合計	3,291	3,214
投資その他の資産		
投資有価証券	48,107	47,836
繰延税金資産	2,936	2,981
その他	8,715	9,429
貸倒引当金	△193	△190
投資その他の資産合計	59,566	60,056
固定資産合計	241,751	245,339
資産合計	401,890	418,413

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	53,447	61,786
電子記録債務	5,277	6,202
短期借入金	17,969	20,320
未払法人税等	2,227	908
賞与引当金	4,876	2,606
その他	29,336	35,169
流動負債合計	113,134	126,994
固定負債		
社債	10,000	15,000
長期借入金	39,378	33,900
繰延税金負債	6,607	6,930
再評価に係る繰延税金負債	3,815	3,815
役員退職慰労引当金	14	14
退職給付に係る負債	8,826	9,155
資産除去債務	1,250	1,205
その他	9,333	9,129
固定負債合計	79,226	79,152
負債合計	192,361	206,146
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,000	20,000
資本剰余金	17,027	17,027
利益剰余金	147,231	148,686
自己株式	△5,347	△5,326
株主資本合計	178,911	180,388
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,976	19,153
繰延ヘッジ損益	90	25
土地再評価差額金	8,571	8,571
為替換算調整勘定	326	988
退職給付に係る調整累計額	△99	4
その他の包括利益累計額合計	27,866	28,742
非支配株主持分	2,750	3,136
純資産合計	209,528	212,267
負債純資産合計	401,890	418,413

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	427,651	440,302
売上原価	357,686	373,285
売上総利益	69,965	67,017
販売費及び一般管理費	53,525	55,922
営業利益	16,439	11,095
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	712	925
持分法による投資利益	903	-
その他	748	663
営業外収益合計	2,367	1,591
営業外費用		
支払利息	304	256
持分法による投資損失	-	994
その他	391	424
営業外費用合計	695	1,675
経常利益	18,111	11,011
特別利益		
固定資産売却益	2	1
投資有価証券売却益	-	938
その他	-	42
特別利益合計	2	982
特別損失		
固定資産売却損	24	0
固定資産除却損	1,401	741
減損損失	242	86
火災損失	-	2,239
その他	15	36
特別損失合計	1,683	3,104
税金等調整前四半期純利益	16,431	8,889
法人税等	4,783	2,864
四半期純利益	11,647	6,024
非支配株主に帰属する四半期純利益	146	116
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,501	5,908

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	11,647	6,024
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△561	320
繰延ヘッジ損益	30	△65
為替換算調整勘定	226	736
退職給付に係る調整額	283	117
持分法適用会社に対する持分相当額	△13	△5
その他の包括利益合計	△35	1,103
四半期包括利益	11,612	7,127
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,432	6,937
非支配株主に係る四半期包括利益	179	190

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,431	8,889
減価償却費	12,864	12,880
減損損失	242	86
持分法による投資損益 (△は益)	△903	994
のれん償却額	74	82
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△27	26
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,448	△2,274
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△565	△618
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	563	348
固定資産除売却損益 (△は益)	1,422	739
受取利息及び受取配当金	△715	△928
支払利息	304	256
未収入金の増減額 (△は増加)	3,786	336
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,867	△18,815
棚卸資産の増減額 (△は増加)	400	2,461
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,924	9,031
その他	3,415	35
小計	26,903	13,531
利息及び配当金の受取額	789	986
利息の支払額	△315	△255
法人税等の支払額	△5,811	△4,100
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,565	10,161
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付けによる支出	△2	△4
貸付金の回収による収入	46	5
有形及び無形固定資産の取得による支出	△15,607	△13,193
有形及び無形固定資産の売却による収入	12	25
投資有価証券の取得による支出	△420	△1,262
投資有価証券の売却による収入	25	1,160
その他	61	82
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,884	△13,186
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	600	△2,623
長期借入れによる収入	290	-
長期借入金の返済による支出	△15,535	△533
社債の発行による収入	-	4,971
自己株式の取得による支出	△4	△2
配当金の支払額	△2,704	△4,055
非支配株主への配当金の支払額	△2	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,076	-
その他	△595	△89
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,029	△2,336
現金及び現金同等物に係る換算差額	123	265
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△13,225	△5,095
現金及び現金同等物の期首残高	21,829	19,979
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	326
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,604	15,211

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント (注) 1				その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	179,898	185,030	36,190	401,119	26,532	427,651	—	427,651
外部顧客への売上高	179,898	185,030	36,190	401,119	26,532	427,651	—	427,651
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,792	96	726	10,615	9,442	20,057	△20,057	—
計	189,691	185,126	36,916	411,734	35,975	447,709	△20,057	427,651
セグメント利益	10,263	3,935	1,106	15,306	1,070	16,376	62	16,439

(注) 1. 報告セグメントの売上高は、主に「商品または製品の販売に係る収益」によるものです。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業および不動産賃貸事業等が含まれております。売上高は、主に「配送サービスに係る収益」によるものです。

3. セグメント利益の調整額62百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント (注) 1				その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 4
	乳製品	飲料・ デザート類	飼料・種苗	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	187,444	183,536	41,082	412,063	28,239	440,302	—	440,302
外部顧客への売上高	187,444	183,536	41,082	412,063	28,239	440,302	—	440,302
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,911	82	1,027	12,021	10,122	22,143	△22,143	—
計	198,356	183,618	42,110	424,085	38,361	462,446	△22,143	440,302
セグメント利益	8,111	1,210	363	9,685	1,401	11,086	8	11,095

(注) 1. 報告セグメントの売上高は、主に「商品または製品の販売に係る収益」によるものです。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、共同配送センター事業および不動産賃貸事業等が含まれております。売上高は、主に「配送サービスに係る収益」によるものです。

3. セグメント利益の調整額8百万円は、セグメント間の取引消去金額であります。

4. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「(4)四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

2022年6月30日に発生した持分法適用関連会社であるSBSフレック株式会社阿見物流センターの火災により、当第3四半期連結累計期間において、当該センターに保管しておりました当社棚卸資産の損失額等を合理的に見積り、火災損失として特別損失に計上しております。

また、SBSフレック株式会社で発生が見込まれる固定資産等の損失額1,548百万円が当第3四半期連結累計期間の持分法による投資損失に含まれておりますが、2023年3月期第4四半期連結会計期間において、毀損した固定資産等に対して付保している保険金の入金に伴い、同社で受取保険金が計上されることにより持分法による投資損失の金額が1,527百万円減少する見通しです。

上記については現時点で判明している状況に基づいて算出したものであり、今後変動する可能性があります。